半島中農民なきが故に。農業未だ少しも開けず。菜園も亦然り。

半島の住民。多くは浦潮斯德に集合し。其他は所々に散居すると。浦潮斯德より三里半。即ち一番河の邊に未滿期罪人の移村あり。此地は當時浦潮斯德に監獄なきを以て開かれたるものにして。罪人の服役は主として官の事業。殊に海軍建築部の工事を課し。且つ市內不潔物の掃除に從事せしむ。

一番河には麥酒製造所ありて。二十人の人口を有す。其外セダンヘリヤンナヘの二河邊に村落あり。又タイワザ河に支那人の村落あり。

ルツスキー嶋は凡て森林を以て蔽はれ。面積一百十方里あり。而して浦潮斯德を距ること六里。トカレーフスキー岬端より四百サーゼンを隔つ。住民は東方西比利亞第二大隊の二分隊。及び支那人のみなり。支那人は夏は一千人の多きに達すれとも。常住して冬に至るものは三百人に止まり。其戸數八十以上なりとす。支那人中の一部は。漁業を營み。又キヤベツ馬鈴薯。大根。人參。蕪菁。ナサ葱。等の野菜類を作り。大麥。燕麥。粟。玉蜀黍。等の雜穀を收穫す。此地氣候霧多くして。穀草に害あれとも。其結果甚だ宜し。地味は黑土にして。最も植物の栽培に適し。泉源甚多し。嶋中には山羊雉子等を產す。

第二章　浦潮斯德の畧歷史

千八百五十六年英船ウヰンナエステル號始めて此港に來り。此港をメイと名つけたり。

露船の始めて此港に來りしは。千八百五十九年レイテナント・シエフテル氏の率ゐたる帆船なり。

千八百六十年露の運送艦マンジユール號にて警備兵四十名を此港に派遣す。

○同年レイテナントエヂリシユリド氏其率ふる所のコルベツト船ガリー船ン號と共に此地に冬を過し。而して寺院を建設せり。○千八百六十二年。浦潮斯德を以てポルトフランコと定む。○千八百六十四年二等カピタンシユコツト

氏ピヨトルウエリーキー灣內に在る諸港の長官に定められ。同年市廳を設け。市長を置く。

一千八百六十年代の終りには。五十の建物六百の兵士を見るに至れり。其后にコラエフスクより軍務の樞機を此港に移すに至りて。益々昌盛となり。千八百八十五年には。人口一萬に達し。內五千は兵士なり。商業も之に伴ふて發達し。同年には商船入港の數七十。其積載する所六萬噸。而して其價格は大凡四百五十萬「ルーブル」以上に達せり。千八百八十四年には。官設を除き。其他の建物五百七十戶に至り。商業は一百十四戶の大小商店に由て取扱はれ。客店飲食店の類。四十一戶あり。朝鮮より陸地を經て輸入するもの。六千頭の生牛。及ひ四萬「プード」の燕麥等あり。

千八百八十年より。此港とオデッサ港との間に。露國義勇艦隊の滊船を以て定期航海を開き。爾來商工業ともに益々發達し。市民の便利を得る昔日の比にあらす。一千八百九十一年。露國太子此港に來りて。西比利亞鐵道の起工式に臨み。列車の試運轉をなす。

若將來浦潮斯德に代ふるに。其の南方の海港「ポンエット」を以てせざる限りは浦潮斯德の倍々發達して。東洋諸港に冠たるに至らんと期して待つへきなり。

○氣候

此地方の氣候は。一般に他の同緯度に位せる地方に比して。一層冱寒なり。之れ北方より大陸に沿ふて流れ來る所の寒潮の作用に由らすんはあらす。寒潮は唯々冱寒の度を強からしむるのみならす。之か爲に夏時は南及ひ東南の暖風多量の水蒸氣を北方寒潮の上に吹來り。凝成して雨霧となる。故に夏時は非常に雨霧多く。溫氣甚しく。不快之より大はなし。水氣を含みたるものは皆黴を生し。樹木の枝葉も黴菌を以て封せらるゝことあり。食料品は腐敗し易く。煙草の如きは大に濕りて味を損す。此霖雨の爲めに。井水は溷濁して飲むに堪へす。稀れ

に雨降らさる日は。極めて蒸し暑く。列氏の験温器日影にて。三十度に達することあり。夜に入りても猶甚た清凉ならず。

秋は一年の中最も好時節にして。熱高からす。微風徐々として市内の空氣を一洗す。快晴の天氣最も多し。而して寒暖に劇變なし。

冬は尚快晴の天氣多く。而して常に北及西北の強風吹き。空氣は大に乾燥し。煙草は乾きて碎粉となり。木板の如きは乾きて自ら割裂するに至り。家具等の損壞少からす。○雪は極めて少なくして。橇を行るに適す。而して降雪時は。強風之を拂ふて海に吹き落せども。若し風なく雪降る時は。大に積ることあり。此の如きことは一年中僅に二三日あるのみ。○冬期大風の吹くことあるは。十月初旬より十二月正月の間なりとす。験温器は列氏の零以下二十七度に降下し。寒氣殊に甚だし。

如斯寒威の高度。空氣の乾燥。及風勢の強烈は。土地の乾涸を來たし。市内僅かに有せる井水にも不足を告くるに至る。○地面は二「サーゼン」の深さ迄凍結す。○連日の寒風凛烈にして。常に塵埃を揚け。行路の人殆と呼吸す可らさるに至る。」

春の始めは氣象極めて良けれとも。暮春に至つては。或は雨或は霧。又時としては雪を交へ。験温器の高低常なく。天氣屢々劇變し。冬に比すれは風和らくと雖。時としては極めて寒風吹き。空氣の温度愈々甚しく。曇天多くして快晴少なし。故に四時の内春は最も悪き時候とす。

浦鹽斯德は其氣候を以てせは。敢て他に誇ることは能はさるの地なりとす。

第三章　住民

浦鹽斯德の狀態を概括すれは。全く政略上の原因より發達して今日に至れり。而して將來政略上經濟上共に必要なる一海港とはなれり。故に現時の住民の如きも。其の主とする所は露國の海陸軍武官兵士等にして。其他の商賈職工等は。直接間接に皆之に附隨して利益を收むるの徒なり。

一千八百八十四年には。人口一萬六十九人。即ち男八千三百六十二人。女一千七百〇七人にして。其內露人六千一百九十七人。歐米人八十七人。支那人。朝鮮人。日本三者合せて三千七百八十五人なり。而して兵營及官の建物を除き。私有の建物七百八十五戶に止れり。

然るに一千八百八十六年には。人口大凡一萬三千六百に上り。其內精確の調査を經たるは軍人のみにして。其他は明らかならす。即ち左の如し。

	海軍	陸軍	露人 男	露人 女	外國人 歐米人	外國人 日本支那朝鮮人	計
士官	〇、一五八	〇、〇四九					〇、二〇七
兵卒	一、九八〇	一、五二八					三、五〇八
家族	〇、五八五	〇、四二八					一、〇一三
其他住民			二、三	〇〇	一、〇〇〇	五、五〇〇	八、八〇〇
計	二、七二三	二、〇〇五	二、三	〇〇	一、〇〇〇	五、五〇〇	一三、五二八

露人の猶太教徒は港內に住する權利なしと雖も。間々其宗教を變じて此港に來り。商業に從事するものあり。

支那人朝鮮人の春より來りて。此地の勞役に從事し。秋に至りて歸るもの毎年三千人餘なり。

現時市民の增加すると共に。兵士も次第に增加し。今や步兵三大隊。塞砲兵二分隊。劍兵一分隊あり。尚此上に陸軍一大隊を增遣さるへき豫定なり。

其后一千八百九十一年迄に著しく增加し。多く未た正確の調査を得すと雖も。既に二萬の人口を有するや明らかなり。

露國官報の記する所によるに。沿海州全道の地積百五十萬方里の間に。目今在住する人口は總計十二萬人に過きす。其內五割三分八厘のみ。露國人にして。其他は總て異種族人民なり。州の南部に於ける住民の總數は。八萬五千人に上ると雖も。露國人は男女合せて。五萬七千人あるのみ。

第四章　諸般の事業。住民の活業

半島中耕作の開けさるは。必竟耕地の尠なきと。農民なきとに基因するヿ。既に上に述へし所なり。〇陸海軍需要の食料品。麥粉米鹽等の如きは。皆他地方より輸入し來るものなり。

市内の商賈等も常に同地方の諸村落。及外國より穀物麥粉等を輸入して。之を販賣す。極上等の麥粉は歐部露西亞。及カリホルニヤより輸入す。若し戰時に際せは。住民は忽ちにして飢餓に陷るヿなきを保せす。

官の蒸氣製粉所一ヶ所あり。又外に商人リンドゴリム氏の蒸氣製粉所あり。又風車製粉場一ヶ所あり。

野菜類は皆ルツスキー嶋の産する所を持ち來り。其他果物は日本朝鮮支那より輸入し來る。

牧畜は未た適當の塲所を得す。唯此より八十里を距る所に馬牧あり。良馬を産す。

獸獵はルツスキーアスコリドの二嶋及ひ大陸地方に於てすへし。鹽浦の近所には。野獸甚た少なしとす。

海上の漁業は悉く支那人の手に歸し。其內海參、昆布、最も巨額を占め。之に次きて鮭鱈鯡等の魚屬。蟹蝦の類。其種類尠なからす。冬に至れは。ウスリー地方より凍りたる魚類を輸送し來る。

薪材伐採の業は。半は歐人に屬し。半は支那人に屬す。

荷車運送業は。凡て支那人の手に歸したり。

枯草は。陸軍用のものは兵士を使ひて之を辨す。市民は皆支那人より買ひ求む。故に此業は皆支那人の手に歸したり。

建築用木材板類石等の供給。其他建築も多分は支那人の一手に歸せり。

港內艀舟の數は二千艘に下らす。皆支那人下等社會の營業たり。千八百八十五

年には。此短艇より收取せし税額五千九百二十七「ルーブル」に達せり。

海軍に屬する機械製作場。及ひ造船場あり。外に石灰製造。煉瓦製造。及ひ木材挽割器械場等あり。陸軍にも建築製作等の諸部を有す。

煉瓦製造は。主として獨逸人の手に屬せり。○「ビール」製造所あり。其製造の「ビール」一「ウユドロ」(廿瓶を以て一「ウユドロ」とす)五「ルーブル」を價す。此「ビール」は浦塩斯德に販賣するのみならず。近時は他の諸地方に向て積出すに至れり。其製造に供する所の大麥は。主として外國より輸入し。時としては「ウスリー」州中の地方より取寄す。製造所は浦鹽より三里半一番川の邊に在り「ビール」の品位は中等なりとす。

鞣革の職工あれとも。其術甚粗拙にして良品を托するに堪へず。○時計職人には歐人、支那人、日本人あり。○仕立屋は支那人のみと云ふを得へく。內に一二の日本人あるのみ。○大工は露人、支那人、日本人あり。內日本人最も其事に巧みにして、雇賃も亦支那人の上に出づ。○錠前職人、鍛冶職人、靴師、製本師、寶石職人等は皆露人に屬せり。

麵包製造は露人と支那人と相半し。○「カルバス」製造は其額微々たり。○「クワス」と稱する飲料水は。露人の一般に嗜好する所にして。夏時の如き殊に多く之を用ゆること。日本に於ける氷水、ラムネ等の如し。其製造は多く支那人の手に歸すれとも。其製出する所。品位惡しく。露人の製するものは遙に之に勝れり。「クワス」に赤白の二種あり。白を以て上とす。

洗濯屋は。凡て日本人の手に歸し。一枚に付六「コペーク」より十「コペーク」に至り「シャツ」の類は十五「コペーク」とす。港内に多數の軍艦の泊するときは。洗濯屋の手廻り兼て大に困ることあり。

雇人の種類は「コック」「ボーイ」子守、下男等、種々あれとも。多くは支那人朝鮮人を用ひ。內に日本人もあり。露人が最も望む所は日本人にして。其善良にして清

潔なるを愛するもの丶如し。就中子守の如きは。日本婦人を以て最上と定む。次きに支那人。又其次きに朝鮮人とし。朝鮮人は多く下男に使はる。露人は大抵酒を嗜むが故に。雇主に於て之を好まさる者の如く。支那人は機敏にして能く用を辨すれとも。不潔の癖あり。朝鮮人は温柔なれとも。竊盜の癖あり。是等諸國人は皆露語を用ひて其用を辨す。其知る所少なく。其語る所正しからさるにも關はらす。甚しき不便を感することなし。給料は一ヶ月十「ルーブル」以上二十五「ルーブル」に至る。

市中道路にて。重量の物を負擔せしむるには。朝鮮人を呼びて之を雇ふなり。譬へは店にて買物をなし。之を家に運はんとするには。道にて「カオレ」(朝鮮人)と高聲に呼へは。道路に客を待ち居る朝鮮人直に來りて之に應す。彼か僅に擔得へき程の重量を負ひ。市の端より端に達するも。十「コペーク」乃至十五「コペーク」にて足り。其他少距離の間は。五「コペーク」を常とす。一時に五人十人を呼び集むるも難からず。

市内の辻馬車は。其數少なくして。途上不時の用には。俄に之を得難く。唯市内二三の所に幾臺も屯在して。客を待つのみ。夜に入れは晝よりも猶尠なき故に。屢々數里の所を徒歩せざるを得ざることあり。之を雇へば一時間に。八十「コペーク」を要し。半時間は其半を要す。

水汲み及ひ荷車も。亦支那人の業とする所なり。一家數口の人。一ヶ月間の水を汲ましむれは。五十「コペーク」より二「ルーブル」半に至る。是其井戸よりの遠近に由れるなり。

第五章　商業

浦鹽斯德の商業は。年を追ふて盛大に赴くことは論を待たす。其商買を大別して。露人、獨人、支那人及日本人とすることを得可し。露人獨人の商業は。各々自國の貨物を扱ふを主とせり。而るに先きには露國産物より。獨國産物の輸入多かりし

に。千八百八十五年義勇艦隊の船舶。オデッサ浦鹽間の航海を開き。且つ輸入品の一部に關稅を課せしより。露國の產物は市場に勝を制するに至れり。獨商等は早くも其商業の方向を轉して。露國の產物をも取扱ふことを勉めたれは。市場に最も勢力を有するは。露國貨物なれとも。其商權の大部分は。猶ほ獨商の手に在りて動かざる者の如し。支那人が此地の商業上に有する勢力は。決して露、獨商賈の下に在らざるへし。其取扱ふ所の貨物の額は詳ならざれとも。一百戶餘の大小店軒を連ねて。海岸の好地位を占め居れり。日本人の商業は未だ微々として振はす。僅に二ヶの大店と。五六家の小店あるのみ。支那人の取扱ふ貨物は支那及日本の物貨にして。日本人の取扱ふ所は。單に日本貨物に止まり。而して己れの當さに有すへき商權の多分は。既に支那人の爲めに占奪せられたり。加之ならす支那人は進んで。歐人(露獨)の商業域內にも浸入し。數年前より歐州物貨の直引を始め。爲めに港內の物價に大なる影響を及ほしたる跡あり。當港輸出の物貨は。僅に金額二十萬「ルーブル」餘なりとす。而して此輸出貿易の多分は支那人の手に歸せり。○此港に輸入する貨物の需用者は。露人を第一とす。唯此港の露人のみならす。ハバロフカ ブラゴウエーシチエンスク ニコラエフスク ニコリスク ポシエツト 樺太島等には。此港より貨物を轉輸し。其需要を充足せしむるなり。第二を支那人とす。支那人は此港に住する者のみにても。五千の人口あり。又內地各處にも。多數の支那人散居し。浦鹽斯德より貨物を琿春に轉送し。遠くは吉林迄も送ることあるなり。第三を朝鮮人とす。朝鮮人は本港及其近傍各地。ウスリー州內に住する者既に數万の人口を有す可く。亦本港と朝鮮北境との間には。陸地貿易を開き。彼れよりは生牛を輸入し。此よりは金巾毛織物其他諸雜貨を輸出し。其貿易は年々增進するのみなり。此の如く浦鹽の商業は。未だ幼稚の年代なれとも。其種類は極めて複雜なるものなり。

本港商業の年を追ふて增進するの原因は。一にウスリーの地方殖民の增加。並

に浦鹽斯德海陸軍備の定策。三はハバロフカブラゴウエーシチエンスク其他内地との交通年を追ふて頻繁なるに至ること。四に琿春地方清國殖民の增加。五に朝鮮人移住の增加。六に水產物其他輸出品の增加等にして。將來西比利鐵道完成を告ぐるに至りては。其結果玆に喋々するを要せす。

本港商業の發達を妨けて。一の欠點とする所は。輸出產物の少なきことなり。將來の輸出產物に注目すへきものは。水產林產及ひ鑛產の三種に止まれるもの〻如し。

第六章　船舶

入港する船舶は。シベリヤ艦隊及ひ太平洋艦隊を除く外。日本、獨逸、英國合衆國、佛國、連馬、瑞典、諸威等の商船時々に入港す。

我郵便會社の滊船は。神戶より長崎、釜山、元山を經て。浦鹽斯德迄の定期航海を開き。露國ヲデッサ港より浦鹽との間には。露國義勇艦隊の滊船六艘を以て。每年春秋二期の航海をなす。

本港在籍の船舶には。「バイカル」號(八百噸積滊船)「シビーリ」號(百噸積「スクーナ」形)「エミーリヤ」(六十八噸積帆船)及「ピオチル一」(スイフン河小滊船外車十一噸積)等なりとす。

千八百九十一年より「ウラジーミル」號「スツレロク」號「ノーウヰク」號の三艘を以て。上海、長崎、朝鮮、浦塩間に航海せしめ。ウラジヲストクバイカル二船をして北方ニコラエフスク線を航海せしむ。是等の諸線路を航する船は。皆一「マイル」に付三「ルーブル」宛の保護金を露國政府より補助せらる。

以上諸船の外に。朝鮮形支那形の大小舟船ありて。近海即ち北はオリガ灣より南はポシユットに至るを回航す。其大形の者七百餘艘に上り。艀舟の數は二千艘に上れり。

艀舟は皆支那人の業に屬す。其構造極めて不細工なれとも。甚堅牢なり。長さ十

尺餘にして。縁高く形箱の如し。一艘に一挺の櫓を附したり。大抵の強風大浪にも能く之を凌ぐ。商船入港すれは爭ふて之れに漕ぎ付け。其用を辨するヿ。我諸港に於ける艀舟に同し。其雇賃は片道十「コペーク」を常とし。夜中は之に倍す。大形の支那船は。底淺くして縁廣く。積載は少なけれとも。能く劇浪怒濤に耐ゆ可し。帆檣は二本にして。我合の子形船の帆に似て。其操縦甚た便利なり。五十石乃至三百石積位なりとす。此船に多少の運賃を拂ふて。少量の貨物を積載し。或は全船を借り受けるヿを得。

第七章　浦鹽斯德生活の便否。幷物價。

生活の便否を一目に見るへきものは。物價表なりとす。故に物價表を掲けて。一千八百八十一年の相場と。千八百九十年の相場を比較せんとす。

品目	千八百八十一年	千八百九十年
貸家一棟 二部屋幷ニ賄方部屋附一ヶ月家賃	四〇、	二〇、
薪 丸木 一「サーゼン」	八、	四、五〇
牛肉 上等 一「フート」	八、	六、ヨリ七、マテ
同 二等 仝	六、	四、
豚肉 仝	一二、	八、
鶏 一羽	一、	〇、七五
鴨 仝	一、	〇、三〇ヨリ〇、五〇マテ
鳰 仝	二、	一、〇〇
鶩鳥 仝	四、	二、五〇
雉子 仝	一、	〇、二〇ヨリ一、迄
七面鳥 仝	仝	一二、ヨリ一五、迄
小ブタ 一頭	仝	一、五〇
山羊肉 一「フート」		二、四〇

鹿肉	仝	—	二、四〇
卵	百ケに付 春冬 夏冬	二、 五、	一、五〇 四、〇〇
牛乳	一瓶	〇、二〇 〇、四〇	〇、一五 〇、二〇
牛酪	一「プード」	二〇、	一六、
日本白米	仝	二、五〇	一、八〇
日本鹽	仝	一、二五	〇、六〇
露砂糖	仝	一〇、	七、五〇
仝蠟燭	一斤	〇、四五	〇、三〇
仝石鹸	仝	—	〇、一五
仝石油	一箱	—	四、一五
仝「スピルト」	一「サエドロ」二十瓶分	—	一八、〇〇
仝「キャベツ」菜	百個	四、〇〇 一〇、〇〇	三、ヨリ 五、迄

馬鈴薯	一「プード」	〇、四〇 一、〇〇	〇、二五ヨリ 〇、四〇迄
大根人參	仝	一、〇〇	〇、四〇ヨリ 〇、八〇マテ
葱	仝	一、五〇 三、〇〇	二、〇〇
玉葱	仝	六、〇〇	一、五〇ヨリ 五、〇〇マテ
胡瓜	百本に付	二、〇〇	〇、五〇ヨリ 一、五〇マテ
管素麵	一斤	〇、五〇	〇、五〇
燕麥	一「プード」	一、二五	〇、五〇ヨリ 一、〇〇迄
材木	長三「サーゼン」六寸四角	五、〇〇	四、〇〇
荷車并馬方	一日雇賃	—	二、五〇
露人人足	仝	—	一、二五
支那人	仝	—	一、〇〇
朝鮮人	仝	—	〇、六〇

職人（大工石工一切等）	仝	二、〇〇
支那人（コック）	一ヶ月給料	一五、ヨリ 二五、迄
朝鮮人下男	仝	[illegible]、ヨリ 一〇、迄
露人日本人下女	仝	八、ヨリ 十五、迄

右表に由て見る時は。此地十年前の物價は。今日に比して非常に高價なるを知るへし。而して今后の趨勢を察するに。此地の漸く發達繁盛するに從ひ。各地との交通も次第に便利となり。日用品物價の如きは。倍々廉にして。而して生活の便利は亦今日の比にあらさるに至らんとす。

單に生活の點より見る時は。露人は素より他の歐米人と雖も。今日に至りては此地に於て甚しき不便を感することなし。朝鮮人支那人等は已れの郷里と異なることなく。寧ろ已れの郷里よりも便利を感すること多かるへく。日本人の如きは長崎よりするも。新潟よりするも。若くは箱館よりするも。共に一葦帶水を隔つるのみにして。唯運賃丈高價を拂へば。郷里の物品を心の儘に用ゆることを得るにより。氣候る寒冱なるより外は。左のみ生活上に困難を覺ふることなし。

家屋は冬分寒氣を防くを以て主とせさるへからさるを以て。我日本に於けるか如く。輕便なる能はす。支那人風の家屋は空氣の流通惡しく。暖爐の構造も完全ならさるか故に。冬分は寒くして住するに堪へす。朝鮮人の家屋の如きは。尚一層甚しく。共に衛生に適せす。露人の家屋に至りては。防寒の法最備はれり。縱令下等社會の住する小屋と雖も。暖爐の構造は皆衛生に適せり。建築の材料たる木材は。未た不足を告くるに臺らす。煉瓦製造所三ヶ所あれとも。甚た高價なり。即ち一千個にして並物大形二十「ルーブル」位とす。石材は粗質の物のみにして良石なし。而して石工の技拙なくして。雇賃甚た貴とし。故に此地の建物は木造最も多く。屋根は亞鉛を以て葺きたるものあれとも。多くは板屋根なり。

夏分は生活上の用度別に變りたることなしと雖も。冬分航海の通せさるとき。寒氣

の度高きとにより。我日本人等に取りては著しく不便を感す。衣服の如きは冬籠りの爲めに。特別の用意なかるへからす。即ち帽子、靴、手袋より足袋に至る迄。皆寒氣を防くに適せさる可らす。而して冬日外出するには。毛皮を裏につけたる外套を着るを普しとす。戸外の力役に從事する者の如きは。冬分は大抵其業を中止する覺悟なかる可らす。冬の將さに近かんとする時は。他地方への郵便往復。及ひ貨物の取寄方等遺漏あるへからす。否らされは結氷の後に至りては。亦如何ともすること能はす。

毎年冬期結氷中に。物貨の賣切を生する時は。其品の價非常に騰貴し。常價の數倍に達することあり。是皆日用品。米、麥粉、石油、蠟燭、砂糖、牛酪等の諸品にありとす。然れとも此地商業の次第に發達するに從ひ。商賈は充分の注意を以て仕入をなすか故に。此の如き暴騰は昔日に比して稍尠なきに至れり。

一千八百八十六年の調査によれは。市内家屋の區別は左の如し。但し兵營及ひ官舍を除く。

公有平家木造り	十二
私有平家木造り	五六七、
仝　二階木造り	一八、
仝　平家石造	三五、
仝　支那風石造	一六、
仝　支那風木造	一二四、

第八章　埠頭及市場

埠頭は市場に近き所に一ヶ所あり。岸に沿ふて廣さ六十六「サーゼン」石垣の前面には木棧を附して。艀舟の繫附け。及ひ物貨の揚げ卸しに便す。此埔頭の前に。各商船碇泊するを常とす。埠頭には支那人の艀舟充塞し。人の此處に來るあれは。支那人等爭ひ來て客を引くを。我國の腕車の寄場に於けるか如き思ひあり。

其傍らには支那形の帆船岸に連繋するもの甚た多し。又埠頭に税關吏の見張り所あり。其后面は即ち市場（バザール）なり。

此埠頭の外に露國の義勇艦隊の埔頭あり。他船は一切之を用ゆるを得す。其邊海水頗ぶる深くして。如何なる大船巨舶たりとも。直に棧橋に横繋して。貨物の積卸しをなすことを得。

右の外にシエヴエリヨーフ商店に屬する埔頭あり。又其他海軍に屬する波戸場三ヶ所あり。

市場（バザール）は埔頭の傍に在りて。海岸に臨み。其後には樹木を植附けあり。四列の木造家屋より成りて。三條の市街をなせり。一列の家屋を幾十戸に區分し。何人と雖も一戸を借り受けて商業をなすを得れとも。此「バザール」は。從來支那人の專有する所となりて。支那人に非されは市場の商業をなすこと能はさるものゝ如し。鳥獸肉。野菜。果物。雜穀其他の食料品は。皆此市場の賣買に出らさるなく。毛皮革衣織物類一切の諸雜貨。凡そ露の農民兵士及び其他の力役者等の下等社會か要する所の者は。一として備具せさるはなし。故にコック、ボーイ、等の輩は毎朝買出しの爲め。此に會し。兵士等は祝日には此に集ひ。其他の下社祀會常に群集して。其雜沓甚だし。〇市場一戸の家賃は。一ヶ月六十「ルーヅル」にして。一人にても二戸三戸を所有し得へく。稍勝れたる商人も其内に在るものゝ如し。

第九章　市街、道路、橋梁、下水、公園、街燈、

市街はゾロトイ、ロック灣の岸に沿ふて一帶の地を占め。一面はアムールスキー灣に臨み。延長七里に亘る。海岸より後面小高き山上に掛けて道路を經緯し。市街を八十に分ち。各々其名を命せり。市街中最も重要の位置を占めたるは。海岸の一帶。即スウエトランスカヤ街なりとす。露獨清等の諸商店は。重もに此中に在りて。車馬人行最も繁く。稍市街の觀をなせるものは。實に此街に止まれり。其他は唯に街路を豫定したるのみ。家屋も疎稀にして。車馬人行も亦頻繁なら

す。未だ市街を以て稱すへからさるなり。街上の道路は平坦ならす。殊に雪解け大雨等に際しては。泥濘甚た深く。殆んど歩行に堪へす。山上より落ち來る谿流數條ありて。街上を横過し。海に入る。此には木橋を架す。大雨に際しては溪流增水して。橋を損するに至ること尠なからす。街路の兩傍には。深溝を穿ちて下水を通し。其上に板を置きて。通行を得せしむ。然るとも此下水溝は。唯土を堀りたるのみにして。石を以て旁縁を築かさるか故に。傍岸屢々飲陷して。大に危嶮を覺ふることあり。其葢板の如きも。屢々取換を要し。年々市費の多分を費やす者の如し。○公園は一の「アドミラル」園あり此園中夏時は毎水曜、金曜及日曜の日に。海軍の軍樂を奏す。何人と雖も随意に入場するを得へし。毎年に一回此園にて慈善富籤興行あり。此日のみは金を拂ふて入るを要す。園庭の結構は。純粹なる露國風にして。頗る風致を欠き。樹木の種類も花木尠なきを以て。日本人の眼には見るへきもの更になし。

第十章　雜業

理髪職　露人の理髪床一ヶ所。日本人一ヶ所あり。支那人の理髪を業とするものも甚だ多けれとも。是其國人の間に業を營むのみ。他國人の之に依頼するものあることなし。

洗湯　室を分ち番號附けとせる湯屋三ヶ所あり。共に露人の營業なり。一室一「ルーブル」より二「ルーブル」ヌ。一人二十五「コペーキ」及五十「コペーキ」のものあり。外に一人五「コペーキ」より二十「コペーキ」のものあり。支那人の湯屋一ヶ所。日本人の湯屋一ヶ所あり。共に一人十「コペーキ」なり。

海水浴　先きに海水浴塲を造りて營業したるものあれとも。得失相償はすして廢す。今は之なし。

客店　客店は三四家ありて。旅客の爲めに大なる不便を感せしめす。一晝夜の宿料二「ルーブル」乃至三「ルーブル」にて。狹小なる一室を貸與ふるのみ。賄は之

れか外なりとす。或る一店の如きは。晝食晩食は共に一「ルーブル」にて。一鉢宛の注文は五十「コペーキ」なり。一ケ月間約定にて晝食を取れは。三十「ルーブル」なり。他の一店の如きは。一ケ月の宿賄料とも。總て五十五「ルーブル」と定めたり。日本人の旅宿一店あり。一泊八十「コペーキ」にして日本人の外。外國人は宿泊することなし。支那人中にも客店あり。是又同國人の宿泊に止まれり。而して支那商賈等は。大抵己れの知巳の家に宿泊するを常とす。

飲食店　菓子屋珈琲店あり。居酒屋あり。支那料理店あり。其中に就きて各上中下等の別あり。麵包製造家も尠なからす。半は歐人。半は支那人の業なりとす。麵包は一「フント」三「コペーキ」より十「コペーキ」に至る。最も安き者は。黑パンとて。露國に於て著名なるものなり。

藥店　藥店は唯一あるのみ。故に醫士の方箋を携へ行きて藥を取るに。路程の遠隔なると。又た時として久しく待たせらるゝの不便あり。急病等には甚た困難なることなり。

病院　海軍病院ありて。市民の入院を許す。一晝夜に入院料六十五「コペーク」なり。然れとも傳染病は謝絶せらる。陸軍病院もあれとも。市民は一切入院することを得す。

醫師　市中には若干の師醫ありて。不便を感することなし。齒科醫は一人もなし。時々日本より來り治療をなすことあれとも。常住せさるか故に來れる時を待ち。爭ふて治療を受けんことを望むものゝ如し。

寫眞師　一人の寫眞師あり。其技術は太た精ならされとも。別に巧手なきを以て。相當の依賴者あり。時々長崎の寫眞師等來りて。夏期のみ稼ぎ。冬は止まらす。水質不良なるか爲めに。仕上け方頗困難なりと云ふ。

新聞　「ウラジヲストク」と稱する每週發行の新聞あり。新聞代郵送費とも。一ケ年十二「ルーブル」五十「コペーキ」なり。港内の出來事。大凡網羅せさる存し。歐羅

巴、露西亞、西比利亞內地各所、支那朝鮮日本各地よりする通信を掲載し。躰裁亦善し。

私立活版所を有せず。故に必要の時に臨みては。官設の活版所に依頼せさる可らす。而して其印刷料甚だ貴とし。

第十一章　住人の遊樂

何れの國に於ても。戸外の遊樂は公園より善きものはあらず。然るに此地の公園は僅かに一ヶ所にして。且園內に風致饒かならさるを以て。屢々訪ふに足らず。然れとも春夏の際稀に好天氣を得は。一番河或は二番川の邊に。郊外の散策を試みるも亦惡からず。

或は支那人の艀舟を雇ふて。港口の岬端に釣を垂るゝも可なり。夏時晩涼を追ふて。埠頭の邊に至れは。晝間の炎暑を洗ふに足り。秋時の紅葉も亦見る可きものあり。

冬の氷橇も愉快なる遊びなり。海上氷始めて結ぶや。其上平坦にして。鏡面の如く。四望玲瓏たり。此時滑金(鋼鐵製船底形の者)を附したる沓を履きて。其上を滑へる露人は。大人小兒とも能く熟練して甚た巧なり。他國人の之を學ぶ際には屢々氷上に顚倒して見苦しきものなり。其氷上を滑り行くは。甚た速迅にして。走馬と雖も之に及はず極て爽快なり。

又坂地を求めて之に水を注きて。凍結せしめ。其上を轆車の如きものに乗り。杖頭を以て操つりつゝ走り。下る遊びあり。是は男女相伴ふて遊ぶもの亦尠なしとせす。他國人の眼には隨分危險に思はるゝ遊びなり。

室內遊嬉には。骨牌盛んに行はれ。客店等に於ても三々五々相集ふて。此遊びをなすもの甚だ多し。

舞踏會あり。音樂會あり。覆面踊及狂言等も時時に催さる。時としては輕業師の日本より來りて興業することあり。

第十二章　電信、郵便、警察、消防、法衙、其他諸種の集會等、

浦鹽斯德に郵便電信局あり。春の解氷の時と秋の結氷の時と。年内の二期は郵便を通ぜず。ウスリーアムール等の諸河は。夏時は滊船を用ひ。冬時は河氷の上に道路を開き。以て僅かに交通の氷をなせとも。結氷及解氷の際。各各一ヶ月餘は。滊船を通せす。亦氷上の道路牢固ならすして。通交全く杜絶するなり。歐部露西亞より義勇艦隊の持來る書狀の如きは。凡一ヶ月半にして受取ることを得。日本よりする郵便物は。我郵船會社の船舶入港毎に。之を受取り。日本暦十二月下旬より。四月中旬迄の間。結氷中は郵便を通せす。此結氷中は海上の郵便線路は。一切壅塞し。唯陸上の線路を通ずることあるのみ。此間便郵線路の斷絶することあるは。我商賈等の爲めに不便實に云ふ可らず。然れとも之を電信に依賴する時は。電信料甚だ貴とし。故に大事に非さるよりは。電信を用ゆることなく。空しく不便を忍んで。解氷の時を待つの外なし。若し朝鮮内地に郵便法開くるに至ては。此不便は忽ち排除することを得べし。

此郵便電信局の外に。嗹馬電信會社の電線あり。日本間の海底線の如きも。此會社に屬す。

警察署あり。署長一人。警部三人。巡査二十五人を以て組織す。如斯の人員にて港内の取締充分ならざるは。無論にして。隱伏せる罪惡も甚だ多かるへし。市内に住する下等社會は。最も支那人朝鮮人の内に多く。時として其内に盜賊の潛伏することなきにあらす。然れども之を探索して驅逐することは甚難し。斯る不完全なる警察の保護は。到底依賴す可からす。畢竟自衛る覺悟なかる可らす。巡査の如きは晝間喧嘩の取分けをなす位に止まり。夜警の効をなすこと殆と稀なり。昨千八百九十一年の如きは。鐵道工事場より脫走したる罪人。市内に現て出。白晝に人を殺すに至り。其危嶮實に云ふ可らざりしことあり。

警察の傍に獄舍あり。多數を容るゝに堪へす。

市内の家屋は稀疎にして。搆造も稍堅牢なるが故に火災は極めて尠なしとす。先きに市場の家屋は二回全焼したることあり。故に現今其家屋内に於ては。火を揚くるを許さず。清人朝鮮人の家屋は頗る粗末の搆造にして。火を取扱ふことも多きが故に。頗ぶる危嶮なりとす。一旦火を失する事あれは。夏期は用水に乏しからざるも。冬時は充分水を得るに處なく。袖手傍觀。其燒失に任するの外なし。

消防組の設けあり。若干の消火器具を備ふ。外に支那人より組織せる一百人の消防組ありて。失火の時は皆章印の衣服を着る。

地方裁判所の設けあり。

海陸軍倶樂部あり。商人倶樂部あり。中小學校あり。圖書館の設けあり。黑龍江學會なるものあり。千八百八十四年の設立にして。時に其雜誌を發行す。

赤十字社。及ひ水難救濟會は。千八百八十一年の設立に係れり。

第十三章　南ウスリー地方各地の景狀

ニコリスク）南ウスリー地方中浦塩斯德に次く地をニコリスクとす。ニコリスクは浦塩斯德を距ること僅かに百里。一條の國道を通し。其間に四驛を置き。各驛に四對の驛馬を有し。馬一匹一里に付。三コペーク宛及ひ各驛の通過に馬一匹に付。十コペーク宛の納税に由て之を旅行の用に供することを得。（但シ夏時ノ旅行ハ、車、冬時ハ橇ヲ驛ヨリ出ス、其大サハ二三人乘リ、或ハ二人乘リニテ、少々ノ手荷物位ヲ容ルヽニ足ル）

此道路は浦鹽斯德よりニコリスクを經て。カーメンルイバロフに達するものなり。夏時は浦塩斯德より滊船「ノーヰク」號にて。「レーチヌイ」に至り。レーナスイにて川滊船「ビチチル」號に乘り移り。スイフン河を溯ほりて。ラズドーリ驛に至り。是より陸路を取ることを得るなり。「ノーヰク」號の運賃は表に因りて知るへく。「ビオチル」號の運賃上等三「ルーブル」下等二「ルーブル」なり。貨物の運送は。別に支那人の荷舟を雇ふて引舟せしむるなり。而して此水路は陸路よりも大に便利なりとす。

ニコリスク村はスイフン河を距ると二里半ラゴーフカ河に臨める平地を占め。道幅十五「サーゼン」にして平坦なり。住民は多くは農夫にして。其家屋一般に木造にして。石灰を以て白く塗りたるものなり。

兵營あり。歩兵三大隊を有す。近頃設けられたる公園、寺院、學校、支那人の市塲。及ひ數箇の風車製粉塲あり。郡衙あり。警察あり。浦塩より。アリベルス及ひチユーリン商店の支店あり。外に三四の小店あり。雜貨の價格は。浦塩よりも較貴しとす。

ニコリスクは南ウスリー地方中。農業の中心とも云ふへき地にして。耕地大に開け。穀價は浦塩よりも遙に賤しとす。凶作の原因ともなるへきは。大雨大旱、河の滿水。及少水等なり。通常の作にて麥粉の價。一「ブード」に付一「ルーブル」乃至二「ルーブル」三十五「コペーク」。燕麥仝五十「コペーク」餘なりとす。牛酪は一斤五十「コペーク」より七十「コペーク」に至り。牛乳は一瓶十五「コペーク」を常とす。

辻馬車は村の一端より一端に至る迄の賃錢。五十「コピーク」にして。一時間は一「ルーブル」なり。洗湯あり。一人に付五十「コヒーク」の湯錢にして。毎土曜日の外は之れなし。

氣候の浦鹽斯德に勝りたる所は。其海上の霧を受くることなきこと。冬時風の較に和らかなることなり。以上の叙する所によるも。ニコリスクは更に生活の不便を感ずることなきの地たるを知るへし。

（ラズドーリ）ラズドーリ村はスイフン河に據り。浦鹽斯德とニコリスクとの殆んど中間にあり。少數の農民ありて。耕作に從事す。此地より浦鹽斯德ニコリスク及ひポシエツトの三方に驛路を通じ。軍事上大に注目すへきの地とす。氣候も亦恰も浦鹽とニコリスクの中間にあり。生活上の事。稍ニコリスクに類すと知るへし。

（カーメン、ルイバロフ）村はハンカ湖の西岸に位し。此處より夏時滊船を發して。

ハバロフカ間の航路を通ず。冬に至れは河氷の上に驛路を通ず。即ちハバロフカ、ウラジウとの間。交通の要路に當るを以て。他の驛村に比し。一層繁榮の觀を呈す。住民は農夫及び「カザク」兵よ成り。穀物の供給滿足し。燕麥の如きは餘分をアムール地方に積出す。三戸の商店ありて。此地の商業を掌握せり。風光頗る佳にして。氣候も亦た近傍各地に比して溫和なり。

（ポシユット）シエット港は浦鹽より殆んど一緯度の南に在り。灣內水深くして大船巨舶を容るゝに足り。氣候は浦鹽斯德に比すれは。寒暑共に較和らかに。結氷期間も隨て短く。即ち前后にて一ヶ月の差あり。滊船「ノーヰク」號を以て浦鹽との間に。一ヶ月六回の定期航海をなし。加之ならす。滊船「バイカル」號等も。浦鹽と日本との往復航路中。此港に寄港することあり。陸軍の一大隊を置かる。住民の半なるものは。軍人及其家族にして。若干の露商。及支那商あり。皆浦鹽斯德より貨物を取寄せ販賣す。

（ヤンナハ）ポシエツトより西の於十二里にして。ヤンナハアリヤンナハは又ノチキエノスコエと云ふ。陸軍二大隊を置く。其他境界委員(コミサル)警察。寺院。郵便電信局。砲臺等の設置あり。此地南ウスリー地方中の最南部に位して。支那朝鮮と境を接し。隨て氣候も同地方中最も溫和に。穀價も貴からす。平地にして耕作の地に乏しからず。水禽野鳥の類甚た多く。野獸も亦尠しとせす。故に生活の容易なるは遠く他地方の右に在り。

ヤンナハより三里にして。朝鮮人の居村あり。皆農民にして家畜を有し。穀物野菜等を耕作す。傍にヤンナハと稱する小川あり。支那境上の山間より發し。ヤンナハの郊外平野の間を流れて。灣內に注ぐ。河岸の地頗ぶる沃饒にして。大抵耕作に適せざるはなく。又平原には嫩草を生し。甚だ牧畜に善し。

ヤンナハは高山を以て海霧を遮ぎるか故に。其氣象はポシエツトよりも優れりとす。即ち夏は溫氣少なく。冬は寒さ强からず。然れども雪は稍他地方よりも

多く。而して冬時橇を用ゆる能はす。

ヤンチハより琿春府に達するの道路は。極めて粗悪なる道路にして。唯山間の凹所に強て車馬を驅りて道を鑿ちたるに過きす。兩所の中間は丘陵一帶の山脉を以て横截せり。之を淸露兩國の境界とす。此山上に淸國の番所あり。其傍に關帝廟を置き。銅標を建てたり。標上に刻文あり。有名なる吳大徵氏の記する所なり。山を越へて淸境に入れは。一區渺漠たる平原あり。農民の家屋其間に散見す。遥に望めは一基の城郭西の一方に屹峙し。其左右各里許にして砲臺あり。巍々として三方相鼎峙し。其壯觀人をして快然たらしむ。淸人等誇て曰く。本城には三千の兵。左右の砲臺に各一千。都て五千の兵を以て此地を守ると。知らず其實數實用は彼か云ふ所の半ばに達するを得るや否。

ヤンチハより南に向て朝鮮に通ずるの道路あり。此道より朝鮮人等毎年。生牛を牽き三々五々相伴ふて露境に入る。

ヤンチハの地位たる前はポシエツトの良港を有して。後は支那朝鮮に通じ。頗る樞要の地位に在り。

（スーチヤン）スーチヤン河一帶の地方を。スーチヤンと云ふ。浦鹽より毎路スーチヤンに至るには。滊船「ノーホク」號一ケ月に三回。乃至五回の航路を開く。陸路は浦鹽より。凡三百露里。浦鹽より驛路リヤンチハ驛或はポドゴーロドナヤ驛に至り。それよりチムヘマイヘ等支那人の居村を馬上にて旅行し。スチヤンに達するなり。

スチヤンには。熊、虎等其他野獸夥なからず。居民は朝鮮農夫。及露國農夫なり。スチヤン河の河口に近く。ウラジーミルアレクサンドルスコエ村あり。此村に警察屯所あり。又五十人の「カザク」兵を置く。

（オリガ）スチヤンより支那人居村等ースンフヂン等を經て。オリガ港に達す。里程二百三十露里なり。此間も亦た馬上の旅行なり。オリガ灣内の風景は極めて

佳なり。野獸には虎、熊、猪、鹿、山羊等あり。又鴨、雉子、「リヤナク」等の鳥類多し。以て遊獵を試むるに足れり。

海路は滊船「バイカル」號毎年夏時浦鹽より三度ニコライスクより四回。此に寄港するのみ。

警察屯所あり。昆布倉庫あり。而して電信郵便は未だ設けられず。氣候は浦鹽に比すれは稍可なり。然れとも一年中七ヶ月間は。世界の外に孤立の地となるなり。

浦鹽斯德畢り

日露度量衡對照表

貨幣	ルウーブル	百コペーキ	七十五錢　洋銀相場ニ
	コペーキ		七厘五毛ヨリ一定セス
尺度	サージエン	七「フート」若クハ三「アルシン」	七尺〇四分九毛
	フート	十二ドイム	一尺〇〇五厘八毛
	ドイム	十リーニヤ	八分三厘八毛
	リーニヤ		
	アルシン	十六ウエルシーク或ハ七ドイム	二尺三寸四分六厘九毛
	ウエルシーク	一ドイム(四分ノ三)	一寸四分六厘六毛
里程	ウヨールスト	五百サージエン	九町四十六間四尺
	サトジユン		一間一尺
面積	方ウヨルスト		百十四町七反二畝十三坪五合
	デシヤチン	二千四尺方サージエン	一町一段四坪八合
	方サージエン	四十九方フート(或)九方アルシン	一坪三合六勺
(水量)斗量	ボーチカ	四十ウエドロト	二石七斗二升七合二勺
	ウエトロー	八シトーフ	六升八合一勺八抄
	ボルウエドロー	二分ノ一ウエドロー	三升四合九抄
	シトーフ		八合五勺二抄
	ボルシトーフ	二分ノ一シトーフ	四合二勺六抄
(穀量)同	ラスト	十二チエツトウエルチ	一石七斗四升五合五勺六抄
	チエトウエルチ	二ナシミトナ	一斗四升五合四勺三抄
	ナシミーナ	四チエツトウエリーク	七升二合七勺六抄
	チエツトソエリーク	八ガル子ーツ	一升八合一勺八抄
	ガル子ーツ		二合二勺七抄
衡量	ベールコウエツ	十プード	四十三貫六百三匁四分
	布	四十フント	四貫三百六十匁四分四厘
	斤	三十二ロート	百九匁一厘一毛
	ロート	三ゾローニーク	三匁四分六毛
	ゾロトニーク	九十六ドーリ	一匁一分三厘五毛
	ドーリ		一厘二毛
貨物	一噸	二分ノ一ラスト(或)六十プード	二百七十貫四百七十五匁五分二厘
	一擔	三プード二十七フント	十六貫九十匁七分三厘

贈片淵琢

昨夕勞々從賤役。餘間切々誨諸生。誰知志士仁人業。嘗盡辛勤功始成。

副嶋一々學人

寄片淵雅友

清貧志士蹈成規。力役勞來充學資。一夜寒雲天欲雪。知君阡陌挽車時。

竹田默雷

明治壬辰九月。賀自活研學會一周年。贈會主片淵君。

賣薪鬻乳日營々。餘力學文成小發。自活一周容易過。多年知是育多英。

中洲老人三嶋毅

自活研學會行并引

余生甫三歳違嚴君。生長於大父之手。弱冠負笈四方。艱難備嘗。明治三十年三月至舊都。寓建仁禪房。翌年來東京。適有友人貧甚不能就學而遂死。於是乎奮勵創立自活研學會。躬自推腕車配牛乳。前内相品川子聞而善之。有所援助。又副嶋海江田佐野諸樞密及三嶋中洲根本通明嶋地默雷先生等奬勵甚至。今也會一周歳。追想往事。聊叙事實。以告贊成諸君。時明治三十五年晩秋也。

我夙辭故園。護抱心事敦。元期磨不磷。何暇思苦辛。不幸喪嚴父。學資難仰覯。(三歳亡父)托身鴻儒塾。(予爲某先生之炊僕三年)寄跡一老禪。(嘗寓南筑梅林禪房參禪故及)溫公之警枕。孫敬之閉門。十年如一日。誓追古聖賢。志業進寸地。轉嗟加尺難。江湖久零落。吾心與鐵堅。就中有不堪。揮涙復相陳。曠野曾獨寢。朔風

徹胸肝。(明治十五年夏遊九州露宿山野數回)墟墓求一宿。夢覺殘月寒。(余年十五遊長崎囊中既盡備借宿皓臺寺墓畔)敢忘忠恕道。推己及衆人。去年來都下。匆々未三旬。耳聞及目睹。書生幾沈淪。況有吾畏友。窮死事堪嗔。貪夫每致富。廉者易爲貧。古今同通弊。言説何足珍。慨然不量力。集徒獨求仁。自活研學會。經營着先鞭。豈獨切磋耳。孜々勞働均。朝配牛乳去。夕借腕車牽。手足日重胝。毛髮月蕭然。至誠感萬物。吾徒奚疑天。寄語宇宙間。志士且仁人。揩眼鑒行事。請以別僞眞。

自活研學會主　片淵琢

友人片淵君。西肥人也。自幼流浪四方。具嘗艱苦。數年前。余初見君於我筑。以爲奇偉卓犖。當世難得之士。訂交頗密。未幾。君以事去筑。余亦負笈東都。爾來音問契濶。生死且不相知。以至于今日。偶依新

紙。傳君自活研學會之事。始知咫尺之地也。乃往訪之詳其近況。實有不堪感嘆焉。賦長句一篇贈之。君時有著述之企。末段故云。

西肥男兒片淵君。桑蓬宿昔志策勳。千秋奇骨流俗外。卓如夜鶴在鷄群。回頭曾遊南筑野。邂逅何圖輦轂下。依然又開舊時顏。磊落劇談臂相把。』自言零落十餘春。辛苦遭逢餘此身。風栖露宿曾三月。水飲絕粒或一旬。』嘗膽舊都建仁寺。伏薪海東富嶽地。南船北馬席不暖。猶極天地守此志。』去年負笈來京城。奮以力學期大成。辛苦經營自活會。勤劬率先育貧生。』鷄鳴蹴枕夙服役。人定挑燈待天白。徒跣街頭配乳朝。橋邊輓車佇客夕。』同志數十相追隨。皆勞筋骨苦心思。苟安天命盡人事。大任降下豈無時。澆季今日世道落。狂猘拂地風俗薄。自任自爲善與人。義俠如君眞木鐸。更喜胸中出雄圖。著述警世豈迂儒。異日龍拏虎爭處。黑龍江畔倍牙湖。』我亦頑鈍不自揣。年來聊抱不朽企。讀書碌々空半生。勵行比君愧欲死。』

明治癸巳首春　　南筑高良敬具

贈片淵錦浦兄

雲仙之山兮有川之灘。山水秀麗靈氣攢。雲仙拔海數千仞。青螺聳空雲際看。』我有師友生其下。字曰子玉姓片淵。自是傲骨脫群類。英氣颯爽豁胸肝。』自稱十三遊覽市。講易觀象心思殫。年之十五抵瓊谷。儘接名流試論難。』阿蘇山下曾卸笈。重修佛曆（須彌說也）神遂完。我亦多年抱此志。始入其門堪驚歎。』寄語桑門有爲士。識不大地坦與圓。看

破至理須及早。誰廻佛道既倒瀾。』維時明治丁亥歲。始接面貌交笑讙。今年偶會輦轂下。屈指匆々經七年。』君說入京不閱月。辛苦創會育後賢。或冒風雨售乳去。或淩寒暑載薪還。』我聞此語感歎久。曠懷期着祖生鞭。況又多年同志士。邂逅何少語言歡。』日來餘力及著述。編成英雄經世傳。興起後生多感發。强露詭譎眞堪憐。』丈夫久撫髀上肉。大鵬九萬當扶搏。金角港頭多沃土。經畧何必問戈干。』君不看露人黑龍江上事。不以兵馬以敎權。悍僧悍將眈眈視。西使淸廷肝膽寒。』嗚呼皇天眷祐蜻蜓洲。祖宗威靈凛在天。寄語雄偉奇傑士。盍向黑龍江上試盤桓。』

明治癸巳春如月

南豊臼陽　平川浩然拜具

欠

MISSING

明治廿四年十二月十九日。自活研學會々主片淵琢君。躬自與會員北風辰雄者。車載薪炭。而二人推挽。將登麴街三宅坂。々急力不堪其重。氣竭勢窮。誤一步則覆車傷人可知耳。顧四邊人馬來往頻繁。却似笑之者。有一女學生。瞥見。挾書冊而狂奔赴之。揮纖臂盡氣力而推之。遂得登坂也。即夜片淵君。叩吾柴門。而未接一言。且先談之。嗚呼今日世間婦女子。僅解文字意氣揚々。不淫奢則驕逸者。比々皆是也。視之女丈夫之俠而知義。豈惟愧死敗德之女流而已。亦足以聳動堂々男子也。其關風教實非尠。余不堪感激。聊賦短古云。

神州靈淑氣。列朝出聖賢。發揮仁與勇。名教爲源泉。棄名有其實。今古幾千年。偉哉君子國。美名海外傳。嗟乎敦厚俗。動蒙有司愍。輕佻化國

粹・人心多機權。施及讀書士。學德固且偏。漫吐繩墨論。飽煖貪醉眠。偶
有篤志士。便又學無錢。不免饑與凍・良質眞可憐。義俠思匡濟。其人姓
片淵。自活硏學會。勞働躬率先。人情難能處。況又事芸編。見君挾持大。
不怪氣浩然。正氣爲聳動・世間衆目率。幸有先覺助・勵志追日專。積載
薪與炭・推挽志愈堅。曾出麴街坂。凸凹車欲顚。傍觀多少客。冷然無救
旃。不圖一學女。纖手太周旋。君亦得氣力・人車幾安全。喜極垂感淚・謝
恩辭萬千。慇懃問名姓。悠然去翩々。想是陰德志。足稱濁世蓮。別後記
風采。面貌不太姸。中心存淑德。衣裳又新鮮。笑殺巾幗女。輕薄競笑嫣。
想昨畠山勇。死節琬琰鐫。（森野定曰余聞畠山勇子素行不修京師死有可喜者作者即稱其死節益君子成人美也）今此
少女子。意氣足隨肩・神州正大氣・磅礴付嬋娟。此事雖小矣。可以薄俗

鞭。世事猶可爲。請君須勉焉。

明治辛卯晩冬

大沼鶴林善稿

明治廿六年七月廿二日印刷
同　年同月廿六日發行
明治廿八年四月七日再版印刷
同　年四月十五日再版發行

版權所有

著作兼發行人　東京麹町區中六番町十番地
自活研學會主　片淵琢

印刷者　東京牛込區市ヶ谷加賀町
一丁目拾二番地　吉岡巖八

印刷所　東京牛込區市ヶ谷加賀町
一丁目拾二番地
株式會社秀英舍第一工場（電話十九番）

發行所　東京麹町區下二番町四十二番地
陸軍受験講義錄編輯所

陸軍受驗講義錄發行主意

方今教育ノ道大ニ開ケ專門若クハ普通ニ係ル講義錄ヲ發刊スルモノ指ヲ屈スルニ遑アラス然レトモ未タ陸軍學校入學準備ニ供スル講義錄ヲ發刊スルモノヲ見ス抑〻今回帝國征清ノ擧ハ全國民ヲシテ大ニ尚武ノ氣象ヲ振作セシメ特ニ青年子弟ヲシテ軍人トナリ國家ノ干城トシテ勳名ヲ旭旗ノ下ニ揭ケントスル思想ヲ惹起セシメタルコト幾千ゾヤ此時ニ當リ陸軍學校入學ノ準備ニ供スベキ講義錄ヲ發刊スルハ是レ豈焦眉ノ一大急務ニアラズヤ況ヤ他日士官タルノ希望ヲ以テ教導團ニ入ルモ既ニ一タビ軍曹トナリ各地兵營ニ分遣ヲ命セラルゝ時ハ遠ク輦轂ノ下ヲ去リテ師友其人ヲ得ス日月匆々流ルゝカ如ク士官學校入學ノ年限ハ既ニ經過シ去リ當初ノ志望ヲ斷絶スルモノ其幾百千人ナルニ於テオヤ獨リ此等ノ人ノミナラス彼ノ寒村僻郷ニ在リテ出京就學センニハ資力ナク郷里ニ居リテ修學セントモ完全ノ教課書モナク空シク悲歎長息スル者亦之ヲ讀マバ以テ其志望ヲ達スベキナリ抑我自活研學會ハ天下貧生ノ誠實ニシテ勤勉ナル者ノ爲メ愛國ノ精神ト廉恥ノ氣節トヲ養ヒ前途國家報効ヲ圖ル者ナリ已ニ合員ノ士官候補生試驗ヲ受ケ合格セシ者多キニヨリ諸方ヨリ入會ヲ申込ム者頗ル夥シ然レドモ一々其望ニ應スル能ハザル事情ノ存スルアリ是ニ於テ講義錄ヲ發刊ス是レ豈海內苦學ノ士ニ對スル一片ノ同情ヨリ發スルモノニ非ラザムヤ講義錄ハ陸軍士官幼年ノ兩校及ヒ陸軍豫備校トシテ著名ナル成城學校講師ヲ初メ其他專門若クハ普通ノ學科ニ於テ十分ナル名譽ト實力トヲ有スル諸氏ニ委托シ專ラ適切ヲ主トシ隔靴ノ感ナカラシムルヲ期シタリ素ヨリ本講義錄ヲ發刊スルハ營利ノ爲メニアラズシテ自活研學ノ青年ヲ誘掖扶導センカ爲メナレハ世ノ營利的講義錄ト同一視スルナクハ幸ナリ

明治廿八年四月某日

自活研學會會主 **片淵琢敬白**

第一章 總則

第一條 本所ハ自活研學會出版部ニ於テ設ケ陸軍士官幼年兩校入學試驗ノ諸學科ヲ研究スルヲ以テ目的トス

第二條 本所ノ會員タラントスル者ハ何人ニ限ラス何時ニテモ之レヲ許ス

第三條 本所ハ第一條ノ目的ヲ達セン爲メ實力有ル專門講師ノ手ニ成レル各學科ノ講義ヲ印刷シ毎月二回〔十五日、三十日〕會員ニ配賦ス

第四條 本所ノ學科ハ一ケ年半ヲ以テ凡テ完結ス但シ完結セザル者ハ號外ヲ以テ補フ

第五條 本所攻究ノ學科ハ左ノ如シ

日本歷史、萬國歷史、支那歷史、日本地理、支那地理、萬國地理、地文學、漢文〔日本外史、日本政記、史記等〕算術、代數、幾何、三角法、物理、化學、動物、植物、鑛學、圖畫、衛學、作文、生理衛生

第二章 試驗

第六條 本所ハ毎年七月本所所定ノ學科ニ就キ試驗ヲ行ヒ及第者ヘハ及第證書ヲ授與スベシ

第七條 學科中數學及ヒ作文ハ受驗者ノ常ニ最モ困苦スル者ナレバ本所ハ特ニ會員ノ爲メ時々有益ナル問題ヲ與ヘ算術、代數、幾何、三角法ハ一回十五問ヲ限リ次回發行期日前一週日迄ニ其答案ヲ會員ニ求ムベシ

第八條 作文ハ一回二題之レヲ揭ゲ優等者三名ヲ限リ次號ノ講義錄ニ揭載スベシ

第九條 試問回答ノ優等者ヘハ適宜賞品ヲ贈與シ又ハ講義錄代價ノ一ケ月以上三ケ月以下ヲ免スベシ

第十條　陸軍募集期日前ニハ本所ハ特ニ會員ノ爲メ尤モ剴切ナル問題ヲ撰テ豫備試驗ヲ行ヒ以テ會員ガ實際ノ學力ヲ驗シ調査ノ上各員ノ得點ヲ報告スベシ

第三章　質疑

第十一條　本所會員ハ凡テ講義錄ニ掲載シタル事項ニ付キ通信ヲ以テ本所ニ質疑スルコトヲ得

第十二條　質疑ヲ爲サントスルトキハ半紙ヘ楷書ニテ十行廿字詰ニ認メ講義錄ノ科目丁數ヲ示シ質疑ノ要點ヲ簡明ニ記載シ本所宛ニ送附スベシ但各科ニ付キ同時ニ質疑アルトキハ各科各別ニ認メテ差出スヲ要ス

第十三條　質疑答案ハ遲クモ十五日以内ニ之レヲ作リ質疑者ニ返信ス但シ質疑ノ要領不明ナルカ若クハ問事明晰ニシテ解答ヲ要セスト認ムルトキハ更ニ答案ヲ付セサルベシ但シ質疑ノ事項ニシテ緊要ナルモノハ講義錄附錄トシテ特ニ會員ニ配賦ス

第四章　入退會、會友

第十四條　本所會員タラントスルモノハ左ノ雛形ニ準シ氏名、族籍、住所ヲ記入セル證書ニ入會金三十錢及ヒ會費ヲ添ヘ本所ヘ向ケ申込ムベシ本所ハ直ニ會員ノ證票ヲ發送スベシ但シ會員タルトタラザルトハ本人ノ意見ニ一任ス

竪曲尺四寸

入會請求書

自分儀貴會ヘ入會仕度候ニ付御許容被成下度此段請求仕候也

年月日

現住何府縣何郡何市町村何番地

平民又ハ士族

何某　印

御中

横曲尺五寸

會員ハ左表ニ依リ送金スベシ

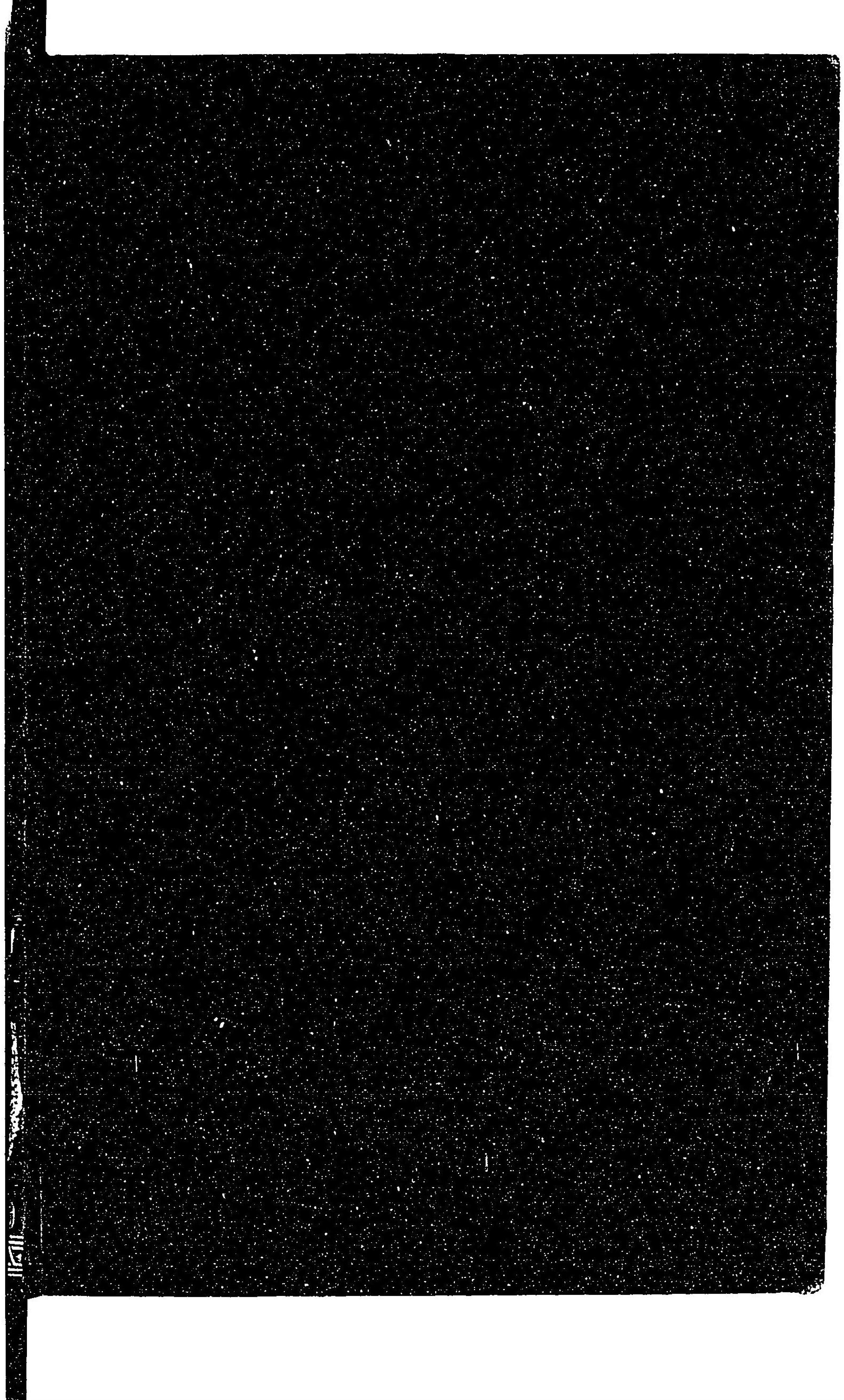
月割	會費	郵税	合計
一ヶ月	三十錢	四錢	卅四錢
三ヶ月	八十八錢	十二錢	一圓
半ヶ年	一圓七十六錢	二十四錢	二圓
一ヶ年	三圓五十二錢	四十八錢	四圓

第十五條　會費ヲ前納セザル者ハ直ニ講義錄ノ配賦ヲ停メ未納三ヶ月ニ及ブトキハ帳簿ヨリ除名スベシ

第十六條　本人ノ都合ニ依リ中途退會スルモ既收ノ會費ハ講義錄ヲ送附シ現金ヲ返還セズ退會セントスル者ハ其申込ト共ニ會員ノ證票ヲ返還スベシ

第十七條　本所卒業證ヲ有スル者ハ本會々友ノ身分ヲ得有ス會友ハ終身本會ニ出入シ且第一條ノ目的ニ依リ諸學科ニ關スル質疑ヲ爲スコトヲ得

45
177



45
177

Ⓜ

003036-000-2

45-177

コサック東方侵略史

片淵　琢（卓枝）／著

M28

ACC-0440